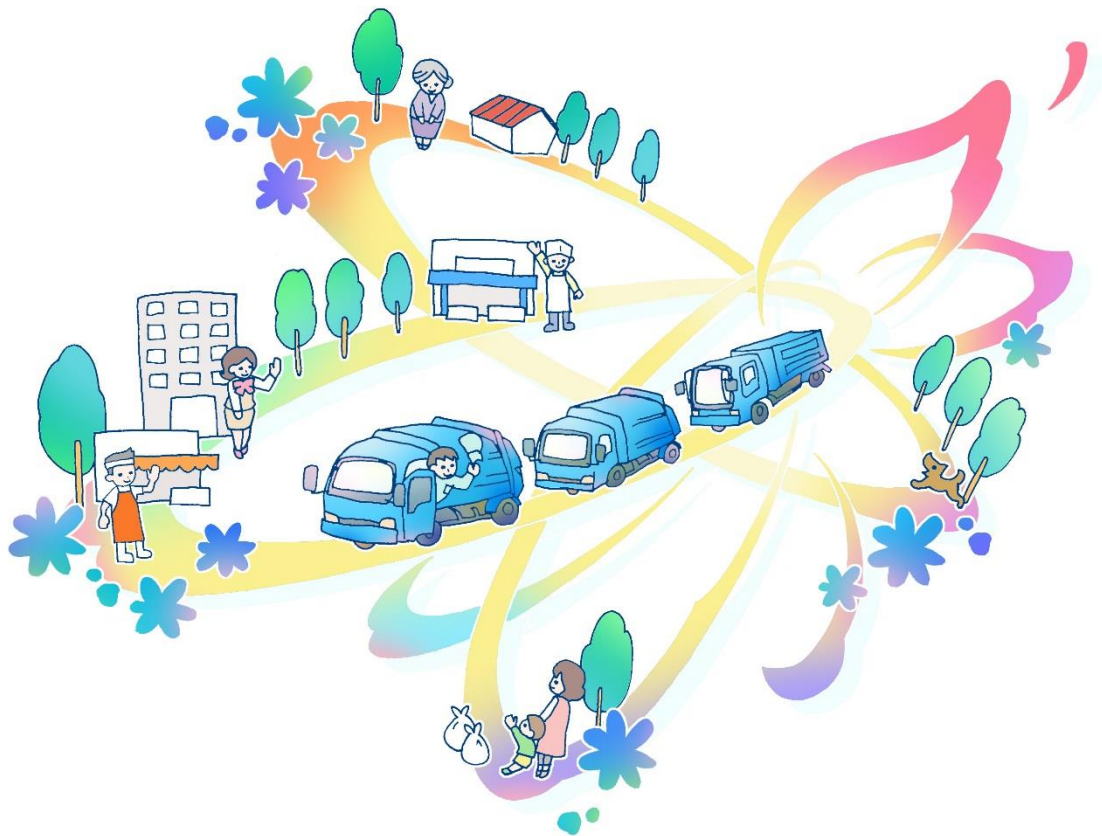


エコアクション21

環境経営活動レポート

(2022年度)

対象期間 2022年7月～2023年6月



2023年8月10日発行



環境経営方針

＜基本理念＞

私たち千葉クリーン株式会社は、印西地区の家庭系及び事業系の一般廃棄物の収集運搬を取り扱う会社として、地域にとって必要、不可欠の存在であることを認識し、地域環境の保全と共生を目指し、環境に配慮した事業活動を推進します。

そのため、全従業員が環境への負荷の削減と環境保全に関する取組に貢献すべく、日々の業務に取り組んでまいります。

また、地域の資源循環型社会の構築に向け、廃棄物処理の専門家として研鑽を積み、地域の相談役となれるよう、努力します。

＜活動指針＞

1. 次の事項について環境目標・活動計画を定め、継続的な改善に努めます。
 - 1) 二酸化炭素排出量の削減（低炭素社会への対応）
 - 電力：事務所・休憩室の使用電力量削減
 - 自動車燃料：燃費の向上と使用燃料量の削減
 - 2) 廃棄物排出量の削減及び再資源化の推進（循環型社会への対応）
 - 自社廃棄物の削減及び分別・資源化の推進
 - 3) 総排水量の削減（地下水の保全）
 - 地下水の節水・管理⇒車両洗車・空き缶洗浄時の節水
 - 4) 受託した廃棄物収集運搬における環境配慮の取組
 - 低公害車・低燃費車の導入
 - 5) その他
 - 社内備品のエコ製品利用の促進
 - 従業員の意識向上・業務環境改善
- 1) 2) については、二酸化炭素の排出削減の重点分野として取り組んでまいります。
2. 環境関連法規、条例及び当社が同意するその他の要求事項を遵守します。
3. 全ての組織及び従業員の参加による環境保全活動を推進します。
4. 環境への取り組みを環境活動レポートとして取りまとめ、公表します。

環境経営方針は、全従業員に周知徹底し、かつ、一般の方に公開します。

制定 2016年8月1日

改訂 2020年8月1日

千葉クリーン株式会社
代表取締役 伊藤達也

1. 組織及び事業活動の概要

1) 事業規模

	千葉クリーン株式会社
法人設立年月日	昭和 57 年 9 月 2 日
資本金	10,800 千円
売上高	155,488 千円(決算期 6 月)
代表者	伊藤 達也
所在地	〒270-1332 千葉県印西市別所 61 番地
ホームページ	http://www.chiba-clean.com
環境管理責任者	伊藤 達也
環境管理担当者及び連絡先	浅野 暖子
	TEL 0476(42)3133 fax 0476(42)8979
従業員	15 名(2023 年 6 月現在)
敷地面積	194 m ² (2023 年 6 月現在)
事業活動の内容	①一般廃棄物収集運搬業 ②産業廃棄物及び特別管理産業廃棄物収集運搬業

2) 対象範囲 (認証・登録範囲)

認証・登録番号：0011803

認証・登録年月日：2017/05/09

認証・登録事業者名：千葉クリーン株式会社

対象事業所名：本社

所在地：千葉県印西市別所 6 1

事業活動内容：一般廃棄物及び産業廃棄物・特別管理産業廃棄物収集運搬

3) 情報公表項目

< 産業廃棄物収集運搬の許可の内容 >

			許 可 品 目										
都道府県	許可番号	許可年月日 及び 有効期限	汚 泥	廃 油	廃 酸	廃 アルカリ	廃 プラ	紙 くず	木 くず	動 植 物 性 残 さ	金 属 く ず	ガ ラ ス く ず、 コ ン ク リ 及 び 陶 磁 器 く ず	が れ き 類
千葉県	01200027857	H30. 3. 30 H37. 3. 29	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
神奈川県	01404027857	H29. 12. 8 H36. 12. 7	●				●				●	●	
茨城県	01404027857	R3. 1. 25 R8. 1. 24					●					●	

< 特別管理産業廃棄物収集運搬の許可の内容 >

			許 可 品 目	
都道府県	許可番号	許可年月日 及び 有効期限	廃 酸	感 染 性 産 業 廃 棄 物
千葉県	01250027857	H30. 3. 30 H37. 3. 29	●	●

< 一般廃棄物収集運搬の許可の内容 >

自治体	許可番号	許可年月日 及び 許 可 期 間	許可区分
印西市	第 3 号	R4. 2. 1 R4. 4. 1~R6. 3. 31	し尿及び浄化槽汚泥を除く 一般廃棄物の収集運搬
白井市	第 10 号	R4. 4. 1 R4. 4. 1~R6. 3. 31	一般廃棄物（可燃・不燃・粗大） の収集運搬

<運搬車の種類 全18台>

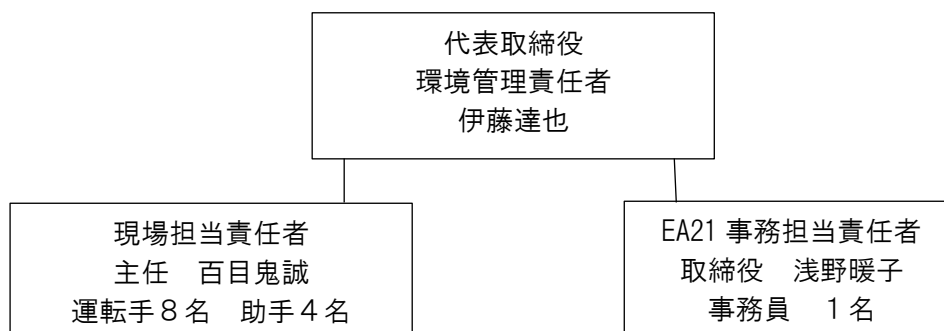
2023年6月30日現在

	車両形式	最大積載量	寸法 長さ：幅：高さ (cm)
1	塵芥車	1,500 kg	676:217:273
2	塵芥車	1,650 kg	677:220:273
3	塵芥車	1,750 kg	681:219:269
4	塵芥車	1,850 kg	670:220:274
5	塵芥車	1,850 kg	692:220:281
6	塵芥車	1,950 kg	673:219:279
7	塵芥車	2,150 kg	666:219:272
8	塵芥車	2,400 kg	576:189:232
9	塵芥車	2,250 kg	666:219:272
10	塵芥車	2,550 kg	667:211:235
11	塵芥車	2,650 kg	574:189:234
12	塵芥車	2,700 kg	567:189:233
13	塵芥車	2,750 kg	567:189:272
14	脱着装置付コンテナ車	2,000 kg	439:169:213
15	脱着装置付コンテナ車	3,450 kg	600:220:250
16	脱着装置付コンテナ車	4,150 kg	595:219:248
17	平ボデー車	1,500 kg	469:169:196
18	保冷バン車	1,500 kg	494:191:270

<収集運搬実績>

受託廃棄物	2020年度 (2020/7~2021/6)	2021年度 (2021/7~2022/6)	2022年度 (2022/7~2023/6)
一般廃棄物収集運搬量	9,771 t	9,988 t	10,116 t
産業廃棄物収集運搬量 (特別管理産業廃棄物収集運搬量)	51 t (0.2 t)	47 t (0.4 t)	31 t (0.4 t)

2. 環境管理組織図



役割	責任及び権限
代表者 (経営者)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 取組の対象組織・活動の明確化 2. 環境への取組を実行するための資源の用意 3. 環境経営方針の作成、全従業員に周知 4. 実施体制の構築、環境管理責任者の任命 5. 代表者による全体の評価と見直し 6. 環境経営活動レポートの承認 7. 経営における課題とチャンスの明確化
環境管理責任者	<ol style="list-style-type: none"> 1. 環境目標及び環境活動計画の策定 2. 環境経営システムに対する実務責任及び代表者への状況報告 3. 環境コミュニケーションの実施 4. 全体の取組状況の確認及び問題の是正及び予防 5. 環境経営活動レポートの確認と修正
EA21 事務担当責任者	<ol style="list-style-type: none"> 1. 環境負荷と環境への取組状況の把握及び評価 2. 環境関連法規の取りまとめ 3. 環境関連文書及び記録の作成・管理 4. 環境経営活動レポートの作成・公表
現場担当責任者	<ol style="list-style-type: none"> 1. 環境経営目標及び環境経営活動計画に基づく教育・訓練の実施 2. 実施及び運用 関連手順書作成及び運用管理 3. 環境上の緊急事態への準備及び対応 関連手順書作成、試行・訓練 4. 現場の取組状況の確認及び問題の是正及び予防
全従業員	環境経営方針の理解と環境への取組の重要性を自覚し、決められたことを守り、自主的・積極的に環境改善へ取り組む

3. 環境経営目標

番号	項目	環境経営目標項目	基準値 (2021年度)	年度目標		
				2022年度	2023年度	2024年度
1	二酸化炭素排出量の削減	電力使用量の削減 (CO ₂ 換算係数 0.455)	11,866 <kWh/年>	基準値に対し1% 削減 11,747 <kWh/年>	基準値に対し2% 削減 11,629 <kWh/年>	基準値に対し3% 削減 11,510 <kWh/年>
		化石燃料使用量の削減 ガソリン (CO ₂ 換算係数 2.322)	ガソリン 470 <l/年>	基準値に対し1% 削減 465 <l/年>	基準値に対し2% 削減 461 <l/年>	基準値に対し3% 削減 456 <l/年>
		軽油 (CO ₂ 換算係数 2.624)	軽油 46,984 <l/年>	基準値に対し1% 削減 46,514 <l/年>	基準値に対し2% 削減 46,044 <l/年>	基準値に対し3% 削減 45,574 <l/年>
		計 (kg-CO ₂)	129,792 <kg-CO ₂ /年>	基準値に対し1% 削減 128,494 <kg-CO ₂ /年>	基準値に対し2% 削減 127,196 <kg-CO ₂ /年>	基準値に対し3% 削減 125,898 <kg-CO ₂ /年>
2	廃棄物排出量の削減	一般廃棄物 排出量の削減	209 kg/年	基準値に対し1% 削減 207 <l/年>	基準値に対し2% 削減 205 <l/年>	基準値に対し3% 削減 203 <l/年>
3	水使用量の削減	水使用量の削減	地下水使用のため、使用量の把握はできませんが、 洗車・空き缶洗浄時の節水管理に努めます			
4	廃棄物の収集運搬における環境配慮	低公害車・低燃費車の導入	排出ガスH28年 基準適合車 17%(全18台中) H27年度燃費基 準達成車 39% (全18台中)	2023年6月までに H28年基準低排出ガス車の占める割合を20%以上 H27年度燃費基準達成車を40%以上		

購入電力の実質排出係数：2018年度 東京電力 0.455 kg-Co₂/kwh (調整後)

4. 環境経営活動計画

番号	項目	環境目標項目	具体的活動内容	活動計画			
				6月	7月	～	6月
1	二酸化炭素排出量の削減	電力使用量の削減	①こまめな消灯 ②エアコンの適温化	表示計画	開始	→	→
		化石燃料使用量の削減 ガソリン 軽油	①省エネ運転の実行 走行時の注意点 急発進・急ブレーキ 法定速度遵守 アイドリングストップ エアコンの適切な使用 車両整備の徹底 最適ルートの構築	表示計画	開始	→	→
2	廃棄物排出量の削減	一般廃棄物 排出量の削減	①分別の徹底 ②使用済み用紙の再利用	表示計画	開始	→	→
3	削減	水使用量の削減	① 地下水の節水管理	表示計画	開始	→	→
4	における環境配慮	低公害車・低燃費車の導入	①低公害車・低燃費車の導入 推進	表示計画	開始	→	→

5. 環境経営目標の実績

番号	項目	環境目標項目	基準値 (2021年度)	目標値 (基準値の1%削減)	活動期間 (2020年7月～2021年6月)	
					実績	目標比
1	二酸化炭素排出量の削減	電力使用量の削減 (CO ₂ 排出係数 0.455)	11,866 <kWh/年>	11,747 <kWh/年>	10,887 <kWh/年>	92.7%
		化石燃料使用量の削減 ガソリン (CO ₂ 排出係数 2.322)	470 <l/年>	465 <l/年>	520 <l/年>	111.8%
		化石燃料使用量の削減 軽油 (CO ₂ 排出係数 2.624)	46,984 <l/年>	46,514 <l/年>	47,078 <l/年>	101.2%
		計 (kg-CO ₂)	129,792 <kg-CO ₂ /年>	128,494 <kg-CO ₂ /年>	129,710 <kg-CO ₂ /年>	100.9%
2	削減	一般廃棄物(可燃ゴミ) 排出量の削減	209 <kg/年>	207 <kg/年>	170 <kg/年>	82.2%
3	削減	水使用量の削減	車両を清潔に保つよう心掛けながら、洗車時の節水にも努めました 空き缶洗浄時も節水に努めました			
4	における環境配慮	低公害車・低燃費車の導入	排出ガスH28年基準適合車 17%(全18台中) H27年度燃費基準達成車 39%(全18台中)	2023年3月に先進車両導入 旧車両1台廃車 排出ガスH28年基準適合車 全車両中の22% H27年度燃費基準達成車 全車両中の44% 目標達成しました		

6. 取組結果とその評価、次年度の取組内容

番号	項目	環境目標項目	具体的活動内容	結果・評価	次年度の取組
1	二酸化炭素排出量の削減	電力使用量の削減	①こまめな消灯 ②エアコンの適温化	休憩時間・終業後の速やかな消灯などこまめに取組み、ぎりぎりの目標達成となった。猛暑の中、従業員の安全を優先してエアコン温度も厳しく設定はできなかった。	①こまめに消灯②エアコン温度の快適音化に引続き取り組む。作業効率の落ちないよう、可能な限り、目標値を達成するよう取組んでいく。
		化石燃料使用量の削減 ガソリン 軽油	①省エネ運転の実行 走行時の注意点 急発進・急ブレーキ 法定速度遵守 アイドリングストップ エアコンの適切な使用 車両整備の徹底 最適ルートの構築	運転手は給油ごとに燃費計算をし、省エネ運転を心がけている。無駄なアイドリングや急発進・急ブレーキ等を排除するよう努めている。収集運搬量が増え、走行距離も長くなったので、燃料消費がそれに比例した。	CO ₂ 排出量のほとんどが軽油であることを認識して、さらなる削減に向けて、省エネ運転の実行と車両整備に取り組んでいく。引き続き、車両ごとの燃費計算を行っていく。
2	廃棄物排出量の削減	一般廃棄物 排出量の削減	①分別の徹底 ②使用済み用紙の再利用	①従業員に分別の周知をした結果、分別はほぼ徹底されていた。 ②使用済み用紙の再利用も事務を中心に積極的に取り組んだ。	①引き続きゴミの分別の徹底をはかる。 ②使用済み用紙の他、使用済み封筒や切手についても再利用をはかる。
3	水使用量の削減	水使用量の削減	車両洗車・空き缶洗浄時の節水	洗車の節水を意識することのでかなりの節水効果があった。	引き続き水が貴重な資源であるとの認識をもって節水管理に努めていく。
4	廃棄物の収集運搬における環境配慮	低公害車・低燃費車の導入	① 低公害車・低燃費車の導入 推進	年度初頭に新車両が導入されたので、目標を達成できた。引き続き新車両の検討を続ける。	さらに新旧車両の入替を進めていく。

7. 外部からの苦情等の受付結果

地域住民等からのクレーム、利害関係者からの訴訟等はありませんでした。

印西地区環境整備事業組合の担当者より収集モレの連絡や作業時の対応要望などがあり、その都度適正に対応いたしました。

ごみ処理に関するご質問やご要望にも応じておりますので、お気軽にご相談ください。

今後、クレーム等に対応するため、コミュニケーション記録を作成し、対応していきます。コミュニケーション記録は3年間保存とし、閲覧に応じます。

8. 環境関連法規等の遵守状況の確認、違反等の有無

区分	環境関連法規等名称	遵守事項等	結果
廃棄物	廃棄物の処理及び清掃に関する法律 (一般廃棄物の処理)	①事業系一般廃棄物の処理 ・市町村が行う一般廃棄物の収集、運搬行政に協力しなければならない ・一般廃棄物の運搬、処分を委託する場合は、許可を取った一般廃棄物運搬業者、環境省令で定める処分業者に委託	遵守
	(一般廃棄物の収集運搬業)	①地域市町村の許可を受けなければならない ②一般廃棄物処理基準に則した処理 ③再委託の禁止 ④環境省令で定める帳簿記載と保管	遵守
	(産業廃棄物の適正処理)	①収集運搬、処分事業者と産業廃棄物処理委託基準に従って二者間委託契約 ②契約書記載事項 ・種類、数量、性状、荷姿、最終処分地、金額 ③産業廃棄物管理票(マニフェスト)の交付・保管 ④管理交付者は、環境省令で定めるところにより当該管理票に関する報告を作成し、都道府県知事に提出	遵守
	(廃棄物処理法施行令改正に伴う水銀廃棄物に係る取扱い)	①水銀使用製品産業廃棄物取扱の許可 ②水銀使用製品産業廃棄物の飛散・汚染防止	遵守
	(産業廃棄物の収集運搬)	①産業廃棄物収集運搬許可証の取得 ②政令で定める期間ごとに更新 ③許可を受けた業者は産廃処理基準に従う ④業務不能な場合は環境省令に基づき書面通知 ⑤収集運搬を他人に委託してはならない ⑥廃棄物管理票(マニフェスト)の回付・保管	遵守
	(特別管理産業廃棄物の収集運搬)	①他のものと混合しないよう区別し、収集・運搬 ②感染性産業廃棄物は必ず専用容器に収納して収集・運搬 ③特別管理産業廃棄物を収集運搬する者は、廃棄物の種類及び取扱の注意事項を記載した文書を携帯	遵守
	千葉県自然環境条例	環境への負荷の低減、環境の保全	遵守
	印西市環境基本条例 白井市環境条例	環境への負荷の低減、環境の保全	遵守
	印西市廃棄物等の減量及び適正処理等に関する条例	①排出の抑制、減量化、再資源化 ②排出物の適正処理	遵守
資源循環	特定家庭用機器再商品化法 (家電リサイクル法)	特定家庭用機器を長期間使用、廃棄物として回収の場合は適切に引渡し、料金支払 テレビ・冷蔵冷凍庫・洗濯機・エアコン・衣類乾燥機に適用	遵守
	使用済小型電子機器等の再資源化の促進に関する法律(小物家電リサイクル法)	自社使用済み小型電子機器をリサイクル法に基づいて処分 (電話機・ファクシミリ・PC・スマートフォン・ファンヒーター)	遵守
	使用済自動車の再資源化等に関する法律(自動車リサイクル法)	自社使用済み自動車をリサイクル法に基づいて処分	遵守

区分	環境関連法規等名称	遵守事項等	結果
大気汚染	自動車から排出される窒素酸化物及び粒子状物質の特定地域における総量の削減等に関する特別措置法 (NOx・PM法)	①対策地域 (指定された対策地域) ②対象自動車 (ディーゼル車・トラック) ③「自動車 NOx・PM 法適合車」の認定	非該当
水質	浄化槽法	設置の届出・設置後、年1回の水質検査 保守点検・定期検査	遵守
その他	貨物自動車運送事業法	事業の適正化・合理化・運輸の安全確保	遵守

2023年4月1日に環境関連法規等の遵守状況を確認いたしました。違反等はありませんでした。なお、過去3年間、関係当局からの違反の指摘、訴訟等もありません。

9. その他の取組

その他の取組として、グリーン購入、紙資源削減として電子Manifestの導入に取り組んでいます。また、従業員の働きやすい職場環境を目指して、各員の健康管理、有給休暇取得の奨励など業務の改善にも取り組んでおり、[健康経営優良法人\(2023\)](#)に認定されました。

10. 代表者による全体の評価と見直し

CO₂の削減目標からエアコンの設定温度を28℃にしていますが、猛暑の中で作業する従業員の体調管理を優先してもっと低い温度設定も可能としました。環境活動的にはよろしくないと思われませんが、従業員の安全第一と考えた経営的措置だと考えております。

次年度以降も最新の燃費基準・排ガス基準を満たす先進型車両を導入予定なので、より環境に考慮した経営になると考えています。

環境に配慮しつつ、弊社の経営資源である従業員の健康と安全が第一として経営をすすめていきます。